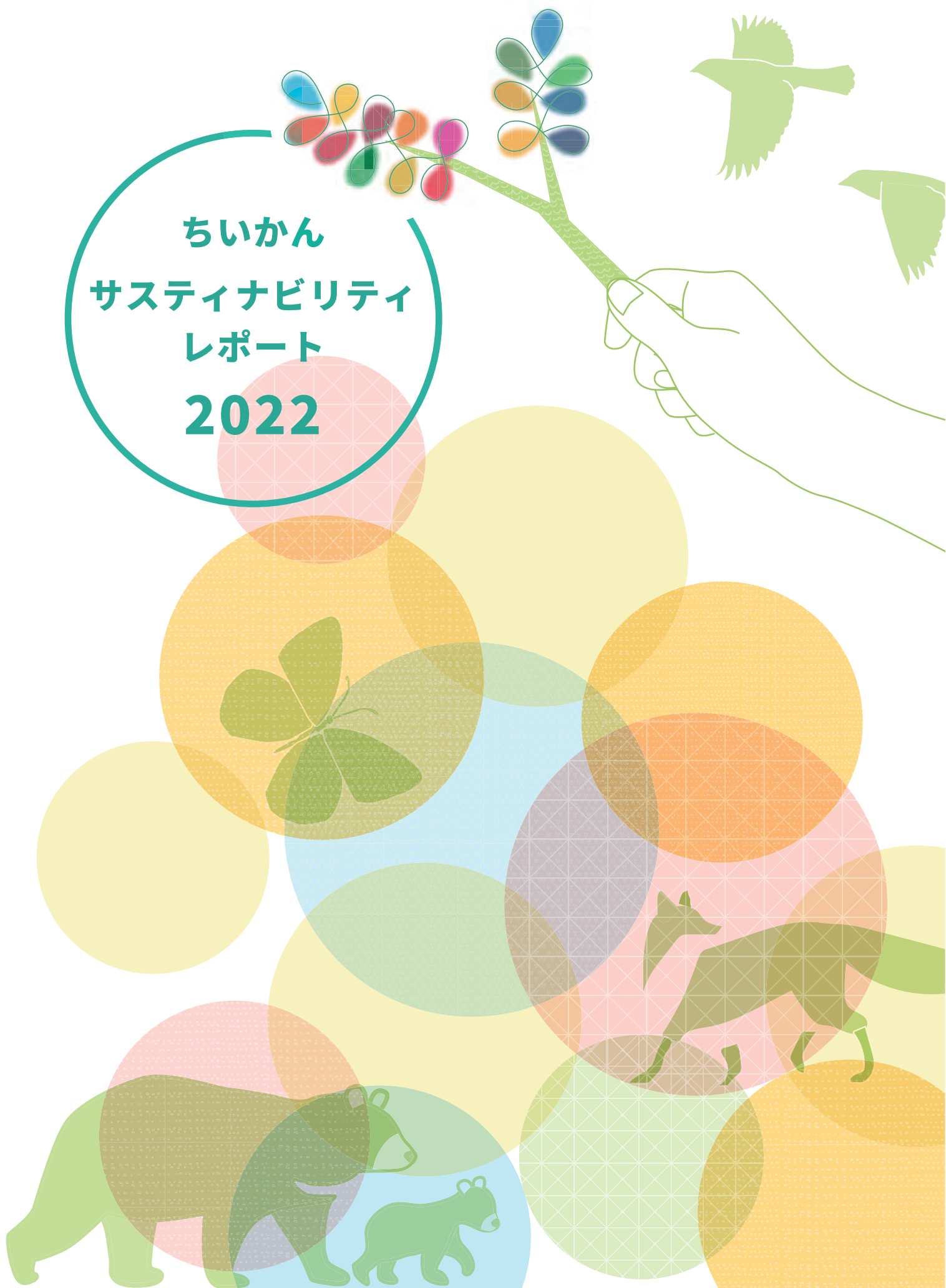


ちいかん
サステナビリティ
レポート
2022



トップメッセージ

「生きもの調査技術」×「場の創出」が 生み出す共有価値

代表取締役 高塚 敏

高塚 敏



「ちいかんサステナビリティレポート2022」を手にとりいただきありがとうございます。皆様には日頃よりご支援、ご指導ご鞭撻を賜っていると存じます。心より感謝申し上げます。

3年前の2019年末に始まったコロナ禍は我が国ではいまだ収束しておらず、さらに今年はロシアによるウクライナ侵攻もあり、引き続き、不安な気持ちで過ごす1年となりました。弊社の事業活動にも様々な支障はありましたが、幸いなことに弊社を含む建設コンサル、環境コンサルの業界では業況への影響は小さく堅調に推移しました。一方、飲食や観光関連の業界をはじめ大きな影響を受けた方々も多いと存じます。そのような皆様が一刻も早く元の日常を取り戻せることを、この場を借りて祈念申し上げます。

さて、弊社が本レポートを作り始めてから3年目になりますが、今年度は“ちいかんがめざす持続可能性”にフォーカスして、当社の取り組みをいくつかご紹介しました。

我々が設立以来磨いてきた「生きもの技術」を生物分類に基づく調査技術にとどめることなく、地域や場の生物多様性、自然環境の保全再生につなげていくこと、さらには、私たちが今まで見つめてきた“生きもの・自然環境”に内在する”暮らしを豊かにする要素”や”人を幸せにする要素”を具体的なサービスとして展開すること。これが、当社が社会の持続可能性に貢献する大きな方向性であり、同時に当社の成長発展にも通じることだと考えます。

本レポートでは、この大きな方向に進むための仕掛けやプロセス、具体的アクションとして、CSV (Creating Shared Value=共有価値の創造)の取り組みや、設立50周年に向けた「ちいかん^{ごまる}50ビジョン」、さらには、リスク回避の観点から必須なESGの取り組みをご紹介します。

限られた紙面のため十分表現しきれない面もありますが、少しでも弊社の将来に向けた活動をご理解いただければ幸いです。最後に弊社の成長戦略の基本的な考え方を紹介します。

■弊社成長戦略の5つのステップ

- ①全社員が共感できる”夢のある長期ビジョン”の策定
- ②ビジョンの実現に向けた戦略の明示と共有
- ③戦略に基づく具体的なアクションプランの策定と着実な実行
- ④プランを実行する社員のやる気と能力を最大限引き出すガバナンス
- ⑤成果のモニタリングとフィードバック、そして躊躇なき軌道修正

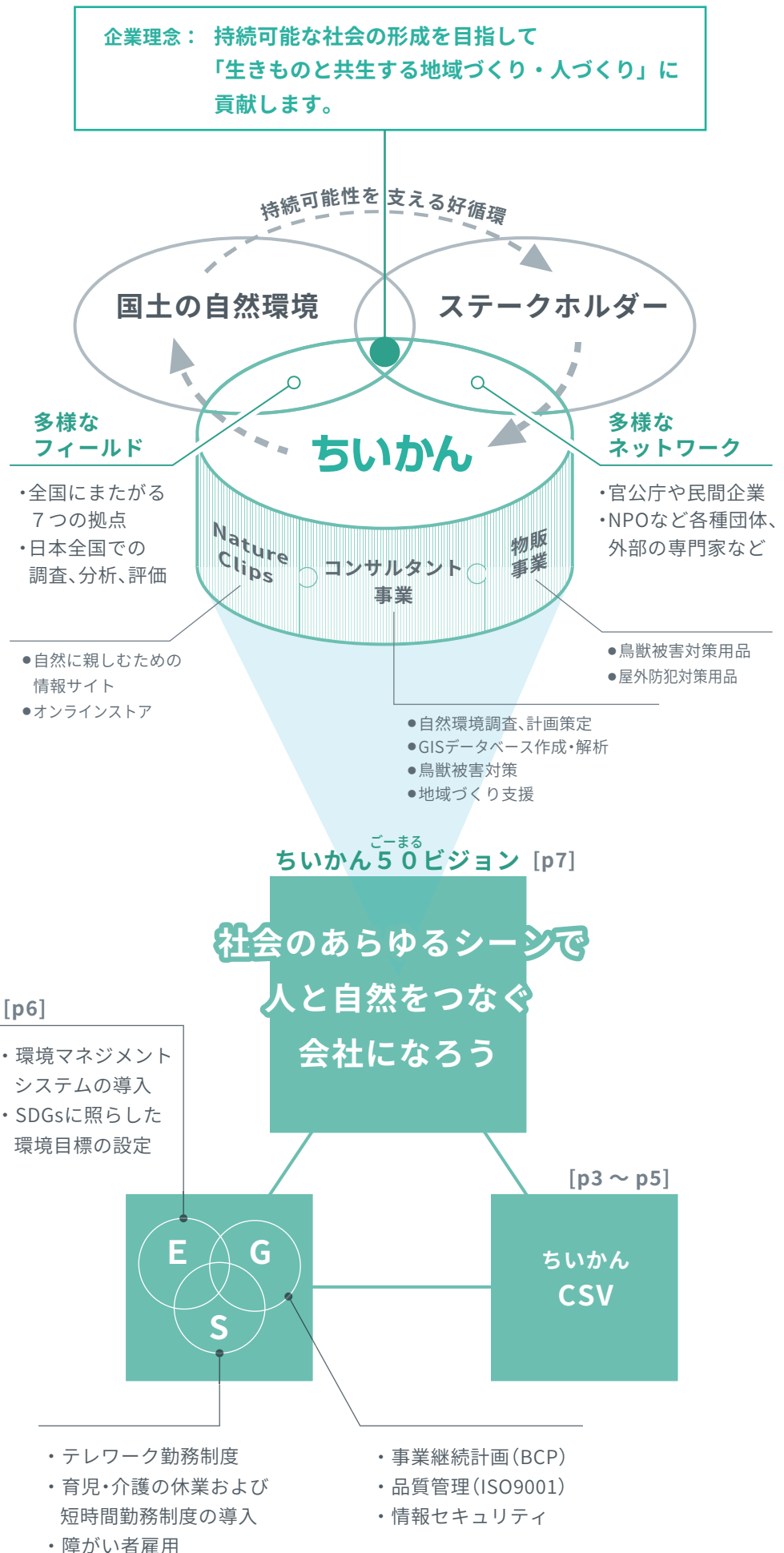
ちいかんは今後も、日本の生物多様性と自然環境の保全再生をリードする会社となれるように努力を続けます。引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

ちいかんがめざす 持続可能性

持続可能性を支える 視点と好循環

当社は、自然環境の保全には地域ごとに異なる自然環境の特性・状態を正しく読み解くことが極めて重要との認識に立ち、人・生きもの・環境の地域らしいバランスとは何かを常に考え、それを形成するために皆様と伴走する存在でありたいと考えています。

そこで今年度、当社のより一層の成長発展と社会貢献への信念と気概を表現するために、^{ごまる}「ちいかん50ビジョン」を策定しました。当社は今後も、ちいかんCSVなど当社の技術を活かした具体的なアクションを起こし、当社・ステークホルダーの皆様・国土の自然環境の持続可能性を支える好循環を生み出していきます。



当社は企業価値をさらに向上し持続的に発展していくため、
本業に係る技術を通じて社会課題の解決に貢献する新たなサービスの提案や
商品開発に取り組んでいます。

＜ちいかん CSV 4 つの基本方針＞

- | | |
|--|------------------------------------|
| 1：ビジネスと社会の両方に貢献する研究開発 | 3：地域活動と共に創る生物多様性の新たな価値 |
| 2：BtoB、BtoG から BtoC(Citizen)、BtoS(Society) を
視野に入れた普及啓蒙 | 4：地域環境をサステナブルにする
プラットフォームの形成と共有 |



アオバトの巣外育雛(子育て)の様子を世界で初めて撮影、web & テレビ放送で動画公開

北海道支社

ちいかんの環境調査技術と知識を生かした貴重な生態動画の撮影と公開

アオバトはとてもミステリアスな鳥類です。日本、中国、台湾で普通に見られる野鳥ですが、繁殖は日本でのみ記録されており、繁殖記録の数はとても少なく、子育ての様子も片手で数える程度の情報しかありません。このアオバトの巣内外での子育ての様子を観察・撮影することに、当社は成功しました。

観察地は、出光興産株式会社北海道製油所「出光アッペナイ水源の森林」です。当社はこの森林の動植物モニタリング調査を受託し、生物多様性の視点で森林価値の評価支援を行っています。アオバトの巣の発見、本種の生態を詳細に観察・記録したこと、そして子育て動画を長時間撮影できたことは、当社の環境調査技術と蓄積された知識により実現したものといえます。当社が誇る技術・知識は、お客様や生きものとの出会いから発生する「さらなる研鑽の機会」により日々バージョンアップしています。



この活動をもっと知りたいかたへ

アオバトの貴重な生態動画や出光興産株式会社の取り組みについては、各社のwebサイト、札幌テレビ放送(STV)の特集番組、学会などの各種イベントを通して広く公開しています。



まる環ゼミ
「そーっと野鳥の行動を観察する動画」
No.6アオバトの子育て



STV
アーカイブ
動画



出光興産株式会社
北海道製油所
ホームページ

2021.8.16
ヒナを抱く♀親と巣を発見2021.8.17
♀親が、かがんでヒナに給餌2021.8.23
孵化後13日(推定)で、ヒナは大きく成長2021.8.26
前日8月25日に巣立ち2021.8.26
親鳥に見守られながら初の飛翔に成功

地球環境についてみんなで学び、考え、行動する「まる環ゼミ」

ちいかんのアイデアとコーディネート力を生かした環境保全活動の創出の場

「まる環ゼミ」のあゆみ

- 2018 環境保全従事者の交流の場創出の検討を開始
- 2019 前身企画である「SDGsと生物多様性の保全ミーティング」を実施
- 2021 withコロナ時代を勘案し、Webサイト「まる環ゼミ」を立ち上げ、座談会、勉強会や環境情報、動画コンテンツなどを提供。環境保全に興味・関心のあるビジネスパーソン、学生、シニア、各種団体など幅広いユーザー層を取り込み、共に知り、行動を起こす場として運営。

●「まる環ゼミ」とは

環境に関心のある人々が集まり、環境保全活動を創出していく場として「まる環ゼミ」をweb上に立ち上げました。

Webコンテンツとして、「焚き火座談会」「そーっと野鳥の行動を観察する動画」「環境キーワード動画事典」「北海道いきものデータバンク」を公開しています(11月13日現在)。

これらは当社とステークホルダーの皆様のアイデアから生まれたコンテンツです。

当社が培ってきたコーディネート力を駆使し、今後も学び合う場、考え合う場、行動し合う場を次々とリリースしていく予定です。



コンテンツピックアップ!「焚き火座談会」

人として、生きものとして、地球の一要素として、環境のプロたちが何を知って、何を考え、何に悩み、何に辿り着いたのか。環境のプロたちが環境を知る意義を語る動画コンテンツ

この活動をもっと知りたいかたへ

まる環ゼミ Web サイト



協働による地域の価値向上へ



フィールドの 生物多様性の価値を明示

アオバトの営巣と世界初となる巣外育雛期(巣の外で子育てする時期)の撮影記録により、「出光アッペナイ水源の森林」の生態系が健全に保たれていることを明示する貴重な資料となりました。

これは出光興産株式会社北海道製油所が長年にわたって生物多様性の保全活動に取り組んできた努力のたまものです。

創出した 共有価値



人のつながりやアイデアを 生み出す場の創出

まる環ゼミは、環境に関心のある人々の異業種交流やSDGsの複数ゴールの達成に貢献できる活動を創出する場です。この場を活用することで、情報交換、共有ができるだけでなく、マッチングによる効果的な環境保全活動を生み出すことができます。また、環境保全活動のアイデアバンクとしての価値も有しています。

30by30への貢献

30by30（2030年までに国土の30%以上を自然環境エリアとして保全する）に貢献するため、生物多様性保全の民間の取り組みに注目が集まっており、その価値を明示することの意義は拡大しています。

価値創造の 意義

協働のネットワークが持つ総合力

特に地方では、環境や生物多様性に取り組む担当者が外部の担当者とのコミュニケーションをとる機会や、多様な立場・幅広い年齢層の人々と交流し相互に意見を出し合う場は限られています。各人の持つ専門性や立場を活かした「総合力」を結集する場の創出が求められています。

生きものに特化した
頼れる調査技術と
信頼できるソリューション実績

環境調査
技術

活動を支える
ちいかなの技術

ファシリ
テーション、
企画・運営
技術

生きものの保全と
活用を支える人々を
つなぐアイデアと
コーディネート力

- 工場緑地の価値を評価するための指標となる生きものの設定
- ワイズユースを実行するために、生きものの生息空間としてのベースラインを把握

一緒にやって
みませんか？

- 生きものの保全と活用の両立に向けた会議
- 生きもの関連の各種イベント



AIを用いた画像・動画解析

当社は、長年に渡り社内に蓄積された貴重な動植物の映像をもとに、深層学習の畳み込みニューラルネットワーク（CNN）を用いた種判別システムを構築し、画像処理の効率化を図っています。

進化する
ちいかなの
技術

[社会貢献活動]



目標

事業所周辺の緑化活動を行い、安全でレジリエントのある持続可能な都市空間をつくる

東京事業所

ゆい結の小庭—NDS花壇—



カワラナデシコ

オミナエシ



取り組みを紹介したパンフレット

本社ビル前の花壇に、地域ならではの自然の回復や環境保全に貢献することにこだわった植栽をはじめました。かつて世田谷区で見ることができた野草や実をつける植物を植え、地域の方々の目を楽しませています。

名古屋支社

社員が育てる庭



オオカマキリ

綿花

収穫が楽しめる植物を植えることで、社員自身が楽しみながら社会貢献につながる取り組みを行っています。2年目の今年は大きく育ち、緑化の面積も増え、訪れる生きものの種類も増えました。

中四国支社

水辺ビオトープと花壇



ヤマトシジミ

花壇にはチョウやハチ類の吸蜜源としてハーブ類や福山市周辺で採取したシソ科などの植物を植えており、ヤマトシジミが吸蜜に訪れます。水辺ビオトープは中国地方で採取した水生植物と福山市で採集したメダカ、タナゴ類などを育てています。

九州支社

ひとつぼ植物園



アゲハチョウ幼虫

ナミテントウ

バタフライガーデンを企画して2年。小さな池も作りました。野草を挿し木などで増やし、現在、小さな庭に九州の野山で見られる草花が50種以上になりました。そして、当初バタフライガーデンとして計画された庭には色々な虫たちも立寄るようになりました。

目標

各事業所においてCSRの取り組みを行う

活動事例

双眼鏡寄付プロジェクト



「海を渡れ！ぼくたちわたしたちの双眼鏡プロジェクト」

社員から使用しなくなった双眼鏡を収集し、寄付することで、公益財団法人日本鳥類保護連盟が行うフィリピンへの寄付活動に参画しました。

- 日本鳥類保護連盟専務理事 名執様（右）
弊社代表取締役 高塚（左）
弊社より寄付の双眼鏡（手前）



公益財団法人日本鳥類保護連盟
活動内容

[その他の環境活動(2023年までの目標と成果)]



エネルギーの使用	産業廃棄物の排出・収集・運搬	グリーン購入（調達）	生態系・生物多様性保全
2019年度の電気使用量から5%削減を行う	2021の廃棄量から10%削減	グリーン購入法適合商品の購入ガイドラインの導入・紙の適合再生紙購入割合90%	環境インパクト低減に関する社内取り組みが継続されている
2021年度は目標を達成できませんでしたが、評価年度となる2023年の達成をめざします。	各事業所の電池使用量モニタリングと充電型電池への移行実験を実施しました。	各支社ごとに目標値を設定し取り組みを進めています。	環境インパクトの低減も踏まえた、現地の安全管理冊子（仮称）の作成を計画しました。

ちいかんが未来に向けて チャレンジしたい、7つの種

ちいかん50ビジョン

理念：持続可能な社会の形成を目指して「生きものと共生する地域づくり・人づくり」に貢献します。

50ビジョン 社会のあらゆるシーンで 人と自然をつなぐ会社になろう

次代を担う若手が描く“夢”

GIS 技術を使って数値化するなど、これまで以上にわかりやすく伝えたい。

海外（途上国）をターゲットとして、人材教育や環境法の整備などで貢献したい。

高齢化やストレスなど健康面の向上にアプローチしたい。

VR×生きものの事業で癒しを提供したい。

普及啓発事業に携わり、生きものに興味がない人と自然とのつながりを増やしたい。

グリーンインフラのような新しい考え方も取り入れて地域づくりに貢献したい。

海外から自然を求めて来る方向けのエコツーリズムを展開したい。

生物多様性保全を経済に組み込むことに貢献したい。

旅行会社とのタイアップやグッズ販売で貢献したい。

農の景観を守る取り組みをしたい。

動植物標本の有効活用により、地域の自然環境保全に貢献したい。

途上国をターゲットに

業界活性
普及活動

グリーン
インフラ

エコ
ツーリズム

農の
景観を守る

動植物
標本

保全活動
の種

農林業
の種

ツーリズム
の種

地域づくり
の種

イベント
の種

教育
の種

医療福祉
の種

VR×
生きもの

次の事業機会領域 “7つの種”

既存事業の磨き上げ

株式会社
地域環境
計画
ちいかん

・本社
・企画営業本部（企画開発チーム／技術営業チーム／プロダクト営業チーム）
・技術本部（自然環境研究部／環境共生推進部／野生生物管理部／北海道支社／東北支社／名古屋支社／大阪支社／中四国支社／九州支社）

<https://www.chiikan.co.jp/>

・関連会社：株式会社エスアイエイ環境事務所（栃木県）



お問い合わせ 企画営業本部 企画開発チーム
担当：上崎・阿部・小楠

E-mail：kikaku-office@chiikan.co.jp

〒154-0015 東京都世田谷区桜新町 2-22-3 NDS ビル
TEL：03-5450-3700 FAX：03-5450-3701